第4章

資料編

参加青年名簿
事業評価アンケート
研修日程
実績

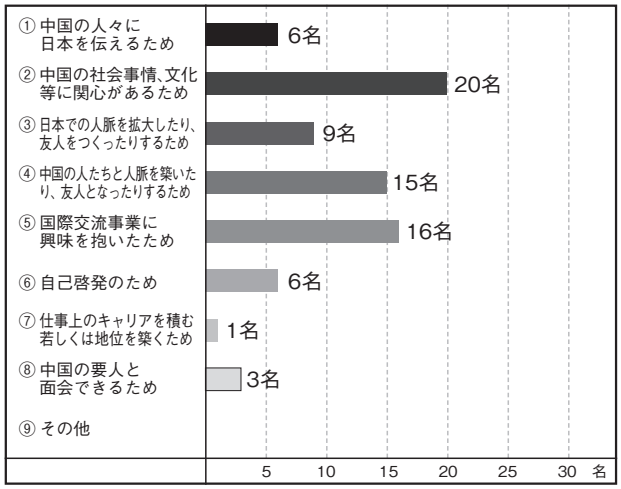
事業評価アンケート

令和元年度　日本・中国青年親善交流事業（日本青年中国派遣）

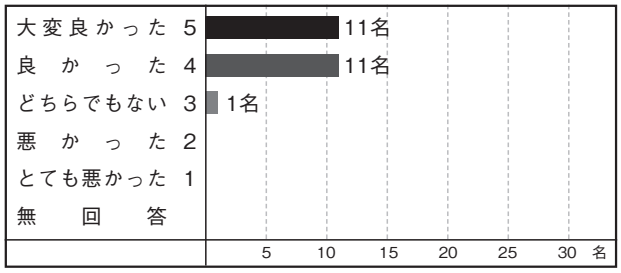
アンケート対象者：団長、副団長、渉外を除く参加青年23名

1．全体評価

⑴　あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。
（複数回答可）

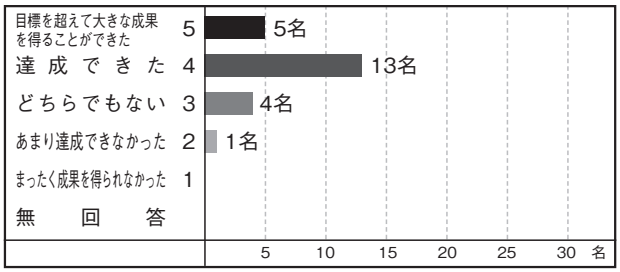


⑵　事業全体をどのように総合評価しますか。



・普通の旅行では行けない場所に訪問でき、普通は一般人が会うことができないような方々のお話を直に聞くことができ、これから社会に出る学生や、社会に出たばかりの大人にとって、今後を考える上で非常に有意義だと思う。
・青年との交流機会はもちろん、中国最先端とも言える企業や施設を見学させていただけたことは本当に貴重な経験になった。
・大学を訪れ、現地学生と意見交換を行ったことが最も印象に残っている。私と同じ年代の学生と直接言葉を交わし、彼らの考えを知ることを通して、中国の若者に対する理解が深められた。

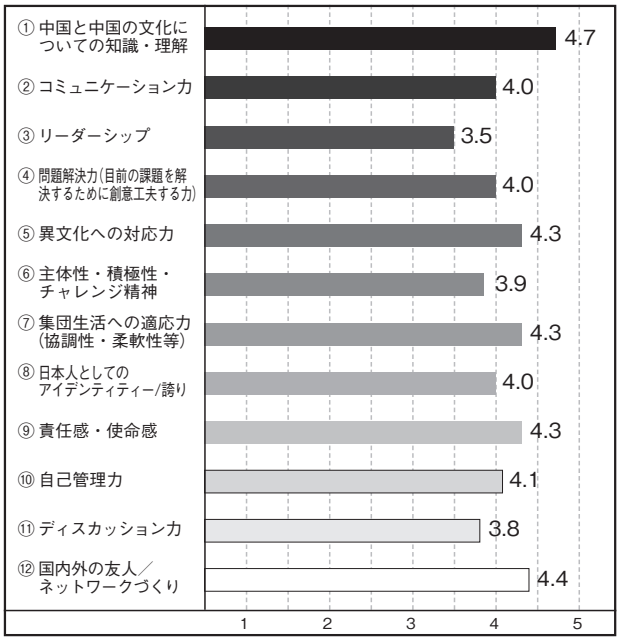
⑶　この事業に参加するにあたって、あなたの目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



・中国の現状を知る、現地の青年と交流し、意見交換し、生の声を聞く。
・日本と中国の共通点と相違点を見出し、日中友好の方法について考える。
・報道による中国への知識ではなく、自らの目で実際に中国を見ることで、自分なりの中国に対する考えをもつ。
・中国のことを知り、日本のことを伝える。

⑷　以下の①～⑫に掲げる項目に関し、この事業全体を通じて得られた自らの成長等への効果について、以下の５～１のうち、該当すると思われる数字を○で囲んでください。（５段階評価）

5：大きな効果があった
4：効果があった
3：どちらでもない
2：あまり効果がなかった
1：効果がなかった

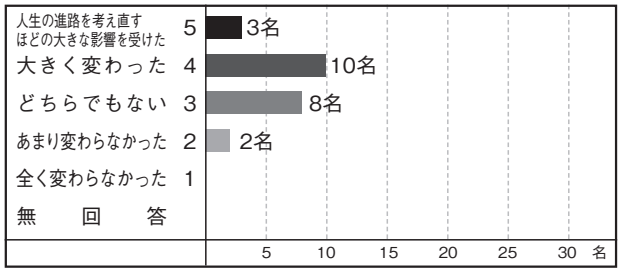


※数値は参加青年23名の平均

(5) 上記(4)に掲げたもの以外で、事業参加によって具体的に得られたものがあれば記入してください。

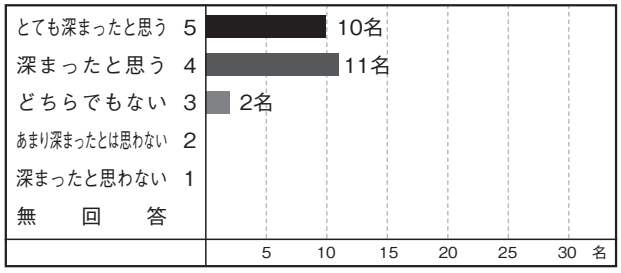
・ホームステイを通して、中国語が分からなくても積極的に気持ちを伝えたら想いが伝わるコミュニケーション力を学んだ。
・チャレンジ精神や勉強熱心な点など中国の良い所を見つける事ができた。
・人の暖かさ、優しさ、中国に対する理解の高まり。

(6) あなたはこの事業への参加を通じて、人生、社会などについての考え方が変わったと思いますか。



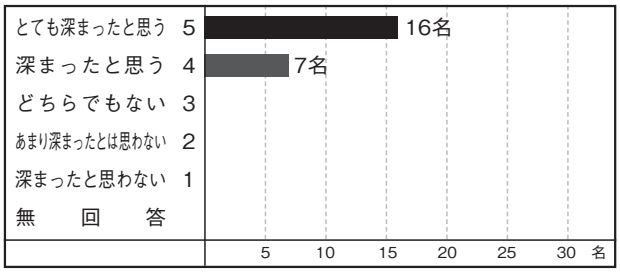
・自分と同じ年数を生きてきた青年と自分でこんなに差があるのかとショックを受けた。ここから巻き返したいと感じたし、さらに自分の視野を広げていきたいと決意した。
・今まで考えてこなかったこと、上っ面だけで理解した気になっていたことについて考える機会が多く、様々な生き方や考え方に触れることが出来た。今後社会人になる上で意識することがたくさん得られた。
・今までは中国の一部地域と企業が成長していると思ったが、中国は街全体で発展していることを改めて実感した。これからは社会全体で何事も計画していかなければいけないと思った。
・固定観念を取り払い自分が感じたことで評価すべきだと学んだ。

(7) この事業を通じて、あなたと中国の人々との相互理解が深まったと思いますか。



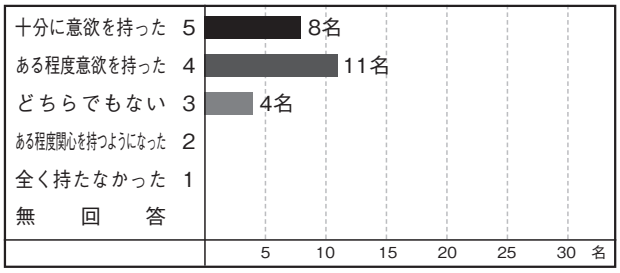
・実際に現地の方と交流しなければわからない考え方をお互いに共有することができた。
・ホストファミリーのお子さんたちは自分たちが初めて出会った日本人だと言っていて、自分たちの姿を通じて日本のことについて伝えることができたと思う。また今回実際に中国に赴いたことで、自分の中国観が大きく変化した。このような点で中国の人々との相互理解が深まったと感じる。
・特に意見交換会でこれができたように感じた。1つのテーマに基づいて中国人から見た日本の印象、日本人から見た中国の印象、そして自国に対するそれぞれの印象を語ることで相互理解につながった。

(8) この事業を通じて、あなたと中国の人々との友好が深まったと思いますか。



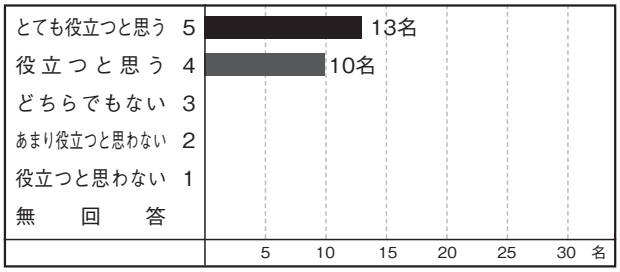
・ホームステイや各大学の人々との交流を通して、言葉の壁を超えた交流が行えた。
・個人単位の繋がりが友好の深まりにつながった。
・ホームステイ、ディスカッションを通じて、今後長きに渡って付き合える友人に出会えた。

(9) 事業参加を通じて、社会貢献活動を始めたい、参加したいという意欲等を持ちましたか。



・自分と同じような思いを持っているけれど、その情報が届く機会のない人に対して、この活動を伝える活動をしたいと思った。
・自身が暮らす街と中国の都市との交流に貢献をしたいと感じた。

(10)－1 この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



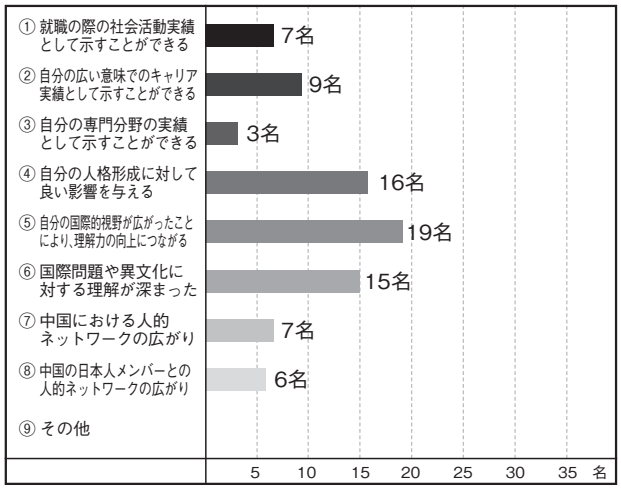
・私は将来、グローバルに活躍する企業に就職したいと考えている。その中で、中国の存在は必ず重要になってくると思われ、今回の研修で学んだ中国経済の知識

は役に立つと確信している。

・世界の見方について新たな観点が自分の中で生まれ、自分の視野が広がったと思う。視野が広がったことで将来的な進路選択の幅も広がった。

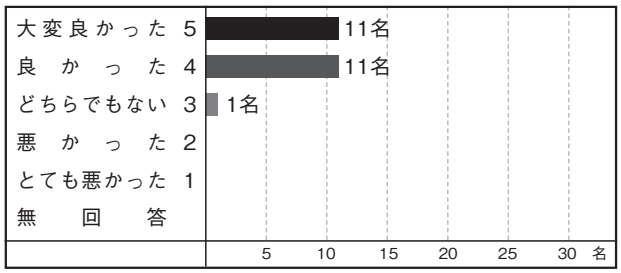
・今回学んだことは、中国の文化歴史から始まり、起業家精神、社会貢献活動など非常に多岐にわたり、私の大学生活に強い影響を与えたと感じている。また、今回一緒に中国に訪問した仲間は非常に大切であり、これからも交流を続けたいと思う。

(10)－2　(10)－1において、5～4を選んだ方は、どのように役立つと考えるか、以下の内容から当てはまる項目を選んでください。（複数回答可）



2. 訪問国活動について

(1)　訪問国活動プログラム全体をどのように評価しますか。



・中国の歴史や文化だけでなく、最先端の技術など多岐にわたる面から中国を見ることができ、非常に有意義であったと思う。

・経済的な発展だけではなく、文化を知ることが出来る場所も回ることが出来たのが良かった。

・旅行では行けないところや、会えないような人の話を聞けた。また中国でのホームステイは本当に貴重な経験だった。

(2)　訪問国活動プログラムから得たこと、発見したことは何ですか。

・ニュースや本などで知っていたことを実際に自分の目で見ることができた。技術の発展が本当に進んでいることが分かった。また、日本は中国に追いつかなければならないと思っていたものの、各国で発展の仕方が異なるため、今後の発展の仕方もそれぞれであって、真似すればよいというものではないことに気が付かされた。

・中国経済の発展の様子、また、最新技術を活用した防犯対策など日本にいた自分では知らなかった知識を肌で感じた。

・自分の積極性の無さ、自己表現力の低さに気付かされた。これは中国人青年から感じたのはもちろん、日本人青年からも感じさせられた。

・中国の青年は日本人よりもチャレンジ精神やチャンスを逃さず掴もうとする心持ちが強いように感じられ、私もそれに続けるようになりたいと感じた。

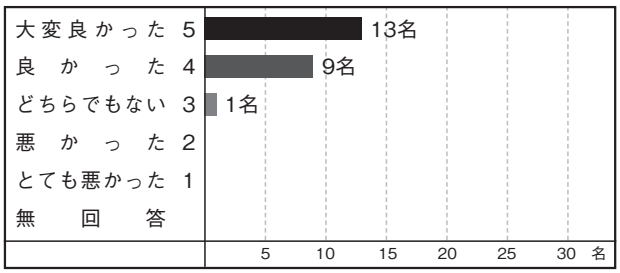
(3)　訪問国活動プログラム中、最も印象に残ったのはどのようなことですか。

・北京大学での起業家支援施設の訪問。成果がすぐにはでなくても、起業しやすい雰囲気を作ることが大事であるということ。特に、「起業への雰囲気をつくることができた」という言葉が印象に残っている。施設ができて2, 3年しか経っていないため、具体的な成果は出ていないが、起業しやすい雰囲気を作ることが必要であると感じた。

・ホームステイで、言葉が通じない中でコミュニケーションをとりながらホストファミリーと過ごすことが出来たこと。

・大学生との意見交換を行ったこと。ディスカッションを行った後にもWeChatを交換し会話を広げたことで、中国人の若者とより深く交流できた。

(4)　地元青年との交流をどのように評価しますか。

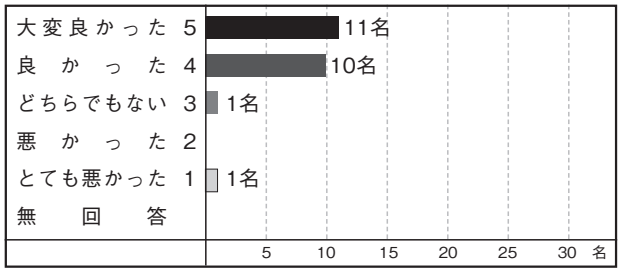


・草の根の交流が、日中間の関係向上に大きく寄与すると思うので、現地青年と直接会話し交流することはとても有意義だと思う。

・各々個人として交流ができたので、お互いの興味関心や学びについて話すことができ、とても有意義な時間

だった。
・大学生との交流が特に有意義なものだった。彼らのアイデアはどれも面白いものばかりで、影響を受けたと実感することができた。

(5)－1　施設訪問をどのように評価しますか。



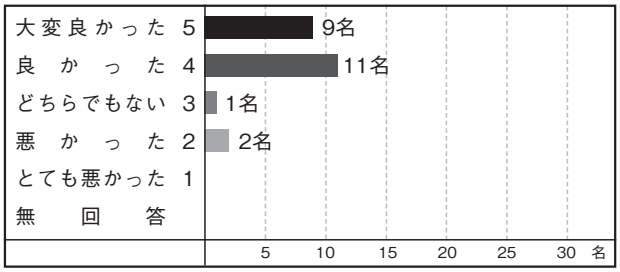
(5)－2　特に印象に残った訪問先を、印象が強い順に3つ挙げ、理由をお答えください。

＜北京語言大学＞
・中国で活躍されている日本人講師の方から講演をしていただき、非常に勉強になった。
・現地学生と長い時間を過ごすことができ、中国の大学における日本語教育について見識を持つことができた。
・1日かけて行ったディスカッションと交流が強く印象に残っている。
・大学生の生の意見を聞くことができ、新鮮だった。

＜中関村創業大街(Z-Inno Way)＞
・中国の若者がどのように起業をするのかということについて、知識を増やすことができた。
・ロボットやITを駆使した技術を目の当たりにし、中国の最新技術の知識を得ることができた。
・企業イノベーションのためのエリアを作るなど、このようなスケールの大きさが、中国の経済発展につながっているのかと感じた。
・企業ストリートのようなものは日本にはないので、参考になった。

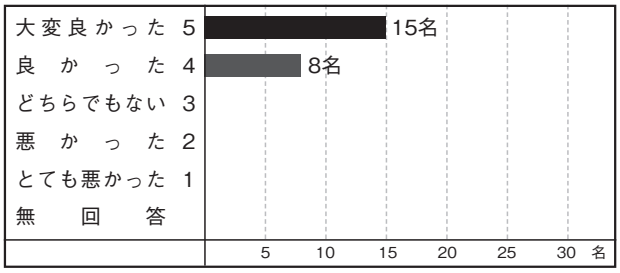
＜鄭州航空港経済総合実験区＞
・空港を軸とした地区づくりという考え方自体が斬新で、好奇心がわいた。
・中国が他の世界中の国とつながるためにどのような取り組みを行っているかを知ることができ、またそれに関わる要職の方のお話を直接聞くことができた。
・中国の都市計画の壮大さを感じることができた。
・経済成長を肌で感じた。

(6)　意見交換・座談会をどのように評価しますか。



・お互いの国の類似点と相違点を知ることで、当たり前だと思っていたことが違うことに気づくことができた。
・現地学生の考えを聞くことができ、中国の学生に対する理解を深められた。一方で、私たちが用意していたパワーポイントやその他の資料を上手に活用できなかったことが心残りの1つだ。

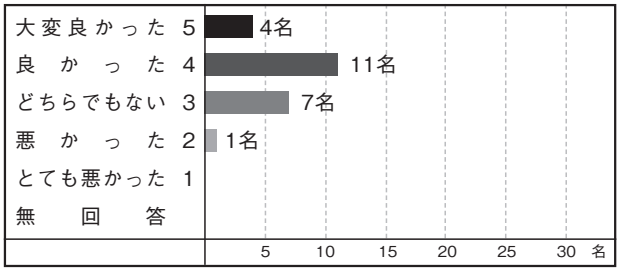
(7)　ホームステイをどのように評価しますか。



・日本と中国のおもてなしの違いを大きく感じた。様々な国でホームステイを体験してきたものの、中国人のおもてなしには驚かされた。
・ホストファミリーと様々な施設を訪れたり、一緒に家庭料理を作ったりすることで中国の日常を知ることができた。
・中国の子供たちの生活をこの目で見ることができたことは、留学ではあまり得られない経験だと感じた。

3．事前・出発前・帰国後研修について

(1)　研修内容をどのように評価しますか。



(2)　研修の良かったところ、改善すべきところをそれぞれお答えください。

＜良かったところ＞
・青年同士を深く知る良い機会となった。特に事前研修

がなかったら現地での活動がこんなにも実りの多いものにはならなかったように思う。
・大人の話を聞くだけではなく、団員が自主的に動く時間がしっかり設けられていたところ。団員同士のコミュニケーションもしっかり取れた。
・中国の現状について、専門家を呼んで講演していただいたのは、予備知識を入れる良い機会だった。

＜改善すべきところ＞

・団目標の設定ばかりになってしまい、連絡体制や自主研修期間の業務について考える時間が少なすぎた。

4．事業を終了して

(1) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

・かなり反省、悔しさの多い派遣となったので自分の中でしっかりフィードバックしていきたい。新しい分野に関心が持てたのは大きな収穫となった。好きな分野に一直線というタイプなので、新しい分野を開拓してみるのも面白いなと感じた。中国人は日本に好印象を持っている人も多く、訪日経験がある人も多いが、日本人の友人で中国に行きたいと言っている友人に今まで出会ったことがないのはとても残念である。今回中国で見たものがすべてではないことは承知だが、今回見たこと、感じたことを伝えて、日中両国の正しい理解に繋げて行けたらと思う。
・帰国後、日本で学ぶことのできなかった中国の現状を日本の人々に伝えていきたい。特に、中国において起業の積極的な取り組み、また、ホームステイで感じた中国の方々の温かい交流の様子を伝えたい。（報告会など）
・意志が上手く伝えられなかったもどかしさ、悔しさをバネに、より言語の習得に励み、多くの海外の人とコミュニケーションがとれるようになりたい。中国の文化や発展の現状をより多くの人に伝えていきたい。
・自分の将来にとって大きな経験をすることが出来た。これまでの大学生活や日々の過ごし方についても考えることが多かったので、忘れることなく自分のために生かしていきたい。また、周囲の小さなコミュニティから大きなコミュニティに至るまで、機会があるたびにしっかり学びを共有していきたいと思う。
・自分が経験してきたことをこれで終わりにするのではなく、日本人で中国に興味のある人、反対に嫌悪を抱いている人に対して、自身が見た、学んだ中国を伝えたい。

(2) その他、この事業の感想や事業に対する意見・提言があれば記入してください。

・多くの企業を訪問でき、話を聞くことが出来たことで、今まで知らなかった世界を多く知ることが出来た。とてもよい経験ができて良かった。
・中国青年との交流はもちろん、日本人からも自分は多くの刺激を受けた。視野を広げつつも自国のこともしっかり理解して行くことが本当に大切だと認識できた。ありがとうございました。
・自分の人生に大きな影響と思い出が残った研修であった。

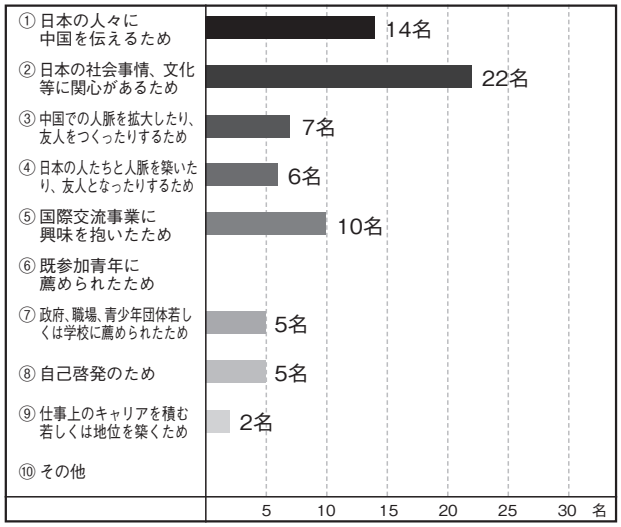
事業評価アンケート

令和元年度　日本・中国青年親善交流事業（中国青年招へい）

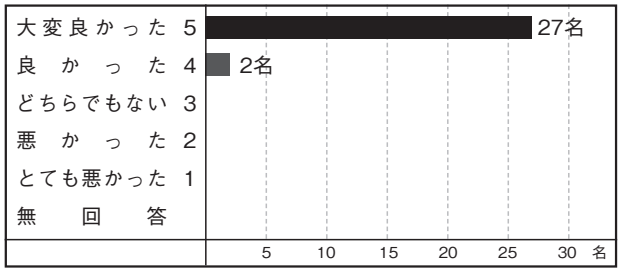
アンケート対象者：団長を除く参加青年29名

1．全体評価

(1) あなたは、なぜこの事業に参加したのですか。（複数回答可）

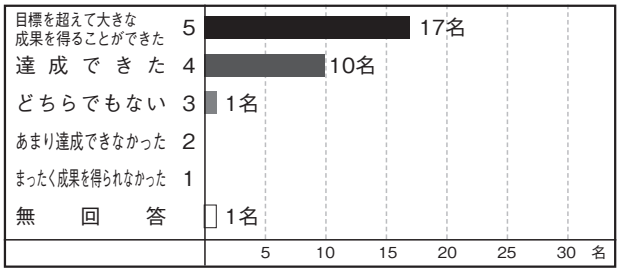


(2) この事業を、どのように総合評価しますか。



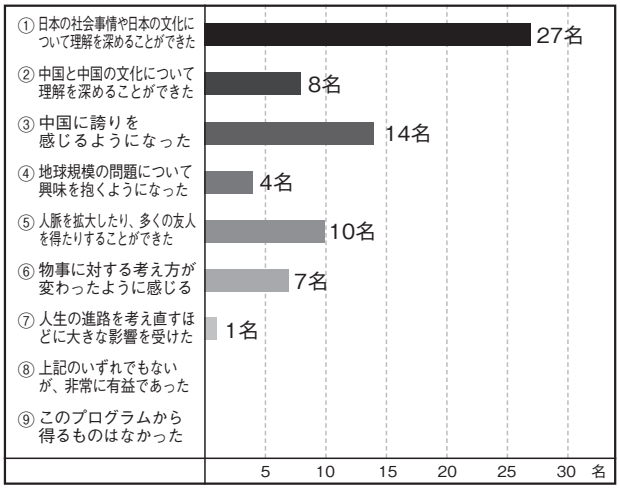
・国家間には交流が必要であり、互いによりよく相手を知ることができる。
・活動訪問地も訪問企業の選択も周到に考慮されていた。訪問地は首都、県庁所在地、その他の都市など、バラエティ豊かだった。訪問企業も業界や規模が様々だった。
・日本の人文、科学技術、社会、環境など各方面の優位性や先進性を感じた。万巻の書を読んでも万里の道をいくのにはかなわず、それぞれの国の相違性を身をもって感じることができた。

(3) あなたが考えた派遣中の具体的目標は何でしたか。また、それは達成できましたか。



・今回の活動を通じて日本経済社会の発展を深く理解し、人々の交流を増進させる。また中国青年として日本人に中国を理解してもらう。
・長所を学び短所を補うことで、自身を充実させる。
・中日両国の青年世代の友好と絆の構築を促進するために力を出す。

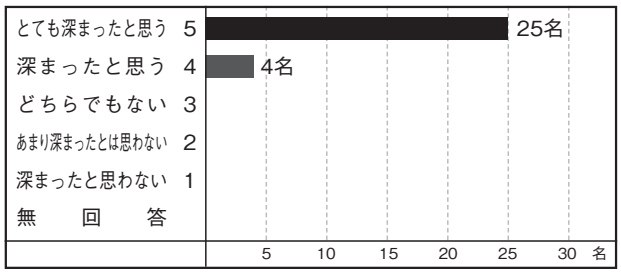
(4) あなたは、この事業からどのような成果を得ましたか。（複数回答可）



(5) この事業から、(4) で示したものの他に、具体的に得られたことがあれば記述してください。

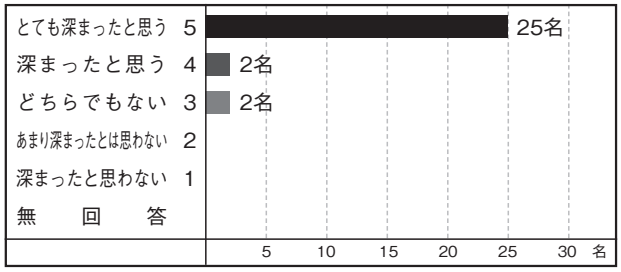
・日本人の仕事や生活に対する態度についてより深く理解した。
・日本企業の目標への集中、道を極めるところが深く印象に残った。
・ホームステイでホストファミリーと言葉は通じなかったが彼らは親切で善良だった。心がつながれば小異を残して大同につく、おおらかな心を持つべきだ。
・ホームステイ先の家庭を理解することで、日本で生活する中国人の生活について感じることができた。

⑹ この事業を通じて、あなたと日本の人々との相互理解が深まったと思いますか。



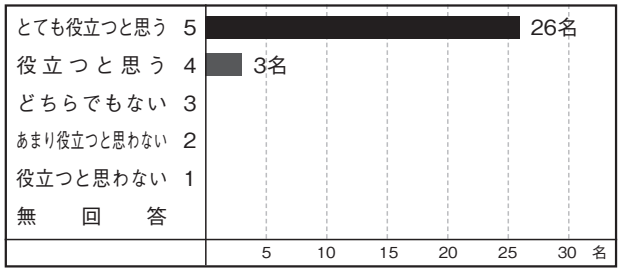
・日中両国間の理解にはまず一般市民同士の心が通じることが先決で、民間交流が今後の日中両国間の理解を促進する。
・大変よかった。もっと多くの業界分野の青年に参加してほしい。
・この活動は大変よいと思う。政治的事情で日本への理解が偏ったものになっているが、今回のように深い体験であれば日本人に対してより多くの理解を得ることができる。
・青年同士の交流が、より中日両国の各方面の理解を促進できる。

⑺ この事業を通じて、あなたと日本の人々との友好が深まったと思いますか。



・今回の活動を通じて友情を深めた。今後もその友情を継続させたい。
・本当の交流は官のものではなく、民間の相互の交流にある。
・ホームステイが理解と友情を深めるのに大いに役立った。

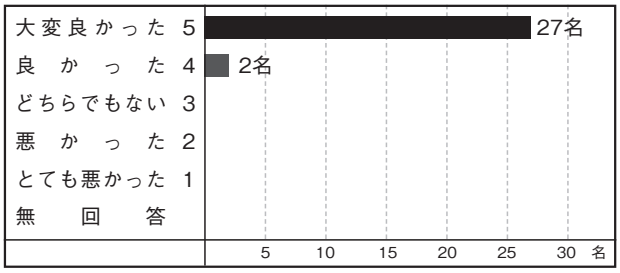
⑻ この事業は、あなたの将来に役立つと思いますか。



・今回の交流で、団員たちの心に素晴らしい思い出の種が植えられた。今回の体験は長く団員たちの脳裏に残り、今後の対日友好や理解において積極的な役割を発揮することになるだろう。
・日本企業の、社会問題の解決を出発点とするビジネスモデルやロジックは学ぶに値する。
・今回の活動で視野が開けた。異なる社会の状況を知り、違いを認め合いながら協力し、異なるものを包み込める広い心を持つことができれば、将来の道をさらに広げることができる。
・祖国への愛が強まり、中国の声を発したいと思った。また多くの友人もでき、これは一生の宝物である。

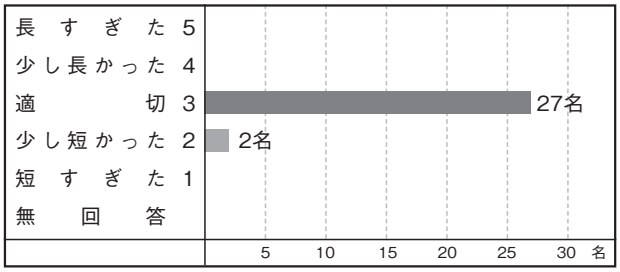
2. 日本での活動について

⑴ プログラムの内容についての全体評価

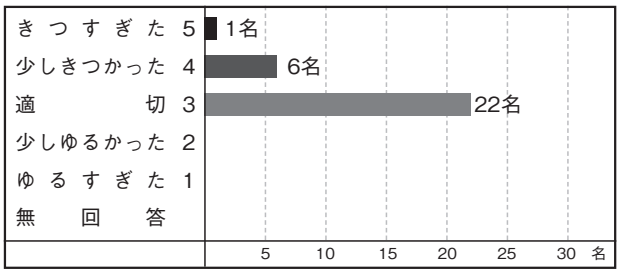


・それぞれの活動で異なる分野、都市、社会と文化、環境を体感することができた。
・身をもって文化的環境や風習を体感できた。自身の成長及び日本への理解においてさらに深い認識を持てた。
・プログラムが豊富で、アレンジも合理的。

⑵－① 期間について（3が最も良い評価）

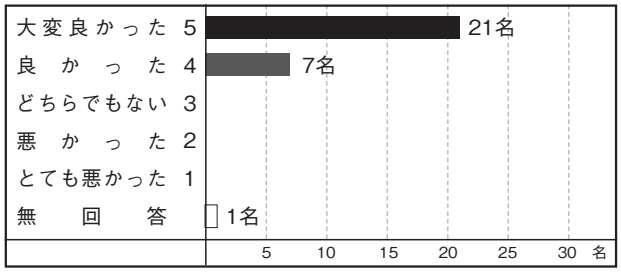


⑵－① 日程について（3が最も良い評価）



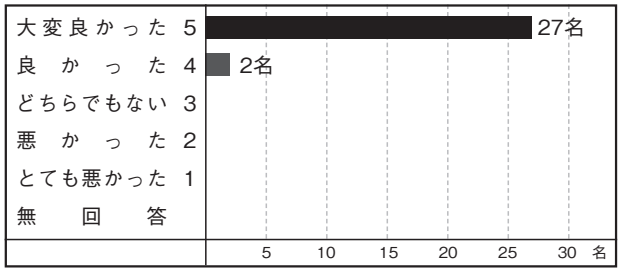
・社会人にとっては活動時間が少し長い。日程のアレンジは無駄がないが、数を減らして少数のエッセンスを心からじっくり味わう形がよい。
・時間の関係で企業の訪問時間がやや短かった。

(3) 東京プログラム 「株式会社和える」について



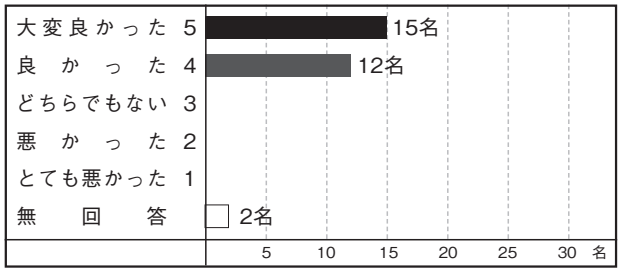
・一企業の文化伝統への使命感と子どもの健全な成長に対する初心を知ることができた。
・製品を革新する職人独自の心と青年の起業活動や情熱を感じた。
・説明が詳しく、深く理解できた。
・職人精神を感じ、それを自身の生活に取り入れたいと思う。

(4) 東京プログラム 「裏千家東京道場」について



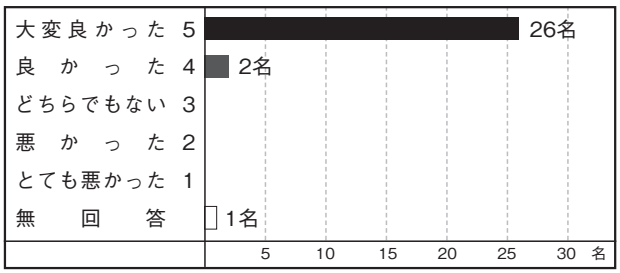
・裏千家は日本茶道の作法と礼儀をとても細やかに専門的なものにしており、心から敬服した。大きな収穫であり、大変有意義だった。
・茶道は、その技法だけではなく、心の浄化、美への悟りであると分かった。
・茶文化を体験した。茶文化は中国から日本に伝わったがその伝承においては日本のほうがより細やかで、中国でも伝承できる企業が必要だと思う。
・日本茶道には以前からずっと興味を持っていた。今回は深く体験できるとてもよい機会だった。

(5) 東京プログラム 「ドーミーレジデンス市ヶ谷」について



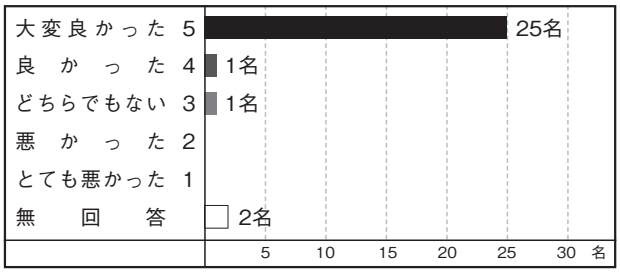
・高品質のサービスが対応する消費者層に提供されている。大変価値のある体験だった。
・とても深く印象に残ったのは、30日メニューの異なる朝食で、細やかな気遣いが感じられる。
・今回の見学でものの見方が変わった。ちょうどよい広さの中に快適さが満ちており、空間資源を十分に活用できていた。
・きめ細やかな生活への追求と会社のビジネスモデルがよい。

(6) 東京プログラム 「ベネッセコーポレーション」について



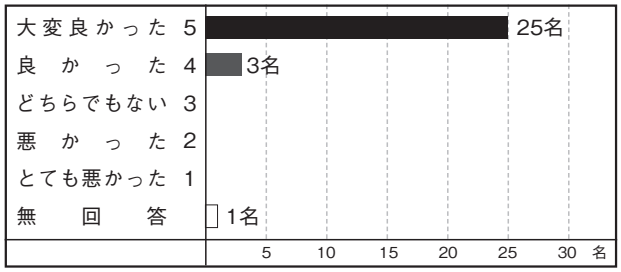
・介護産業が発展しており、そのサービスも人間本位のもので、ニーズに基づく企業の成長路線が考えられており、学ぶに値する。同時に自身の娘もしまじろうの消費ユーザーであり、ブランド知名度も中国では比較的高い。
・60年の歴史を持つ企業が素晴らしい人生を提供するという初心を忘れず、全ての顧客に一生涯にわたるサポートを提供している。
・子どもの教育から高齢者への関心までを感じることができ、今回の訪日で日本人のこの方面での先進的な一面を知り、学ぶに値するものである。

(7) 東京プログラム 「意見交換会」について



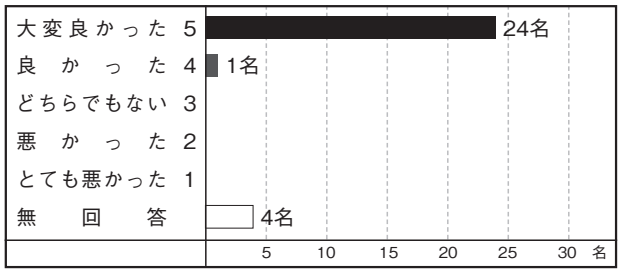
・言葉は障害にならない。意思疎通と出会いは新しい起点となった。
・現地の風習をよりよく理解できた。また、彼らの中国に対する考えを知ることができた。
・日本青年の私たちに対する誤解を正し、彼らにより中国青年の様子を理解してもらえた。
・今回の活動は、日本青年の考えを知る大変よい機会で、互いに多くの日常的な問題について交流した。

(8) 函館プログラムについて



・さまざまな活動があった。副市長を表敬訪問し、函館の高齢化を学び、世界レベルの美しい夜景を体験した。
・景色がよく、日程も合理的、起業モデルは学ぶに値する。
・日程がバラエティ豊かで満足した。
・函館の美しさは衝撃的で、水産業の見学も面白かった。

(9) 鳥取プログラムについて



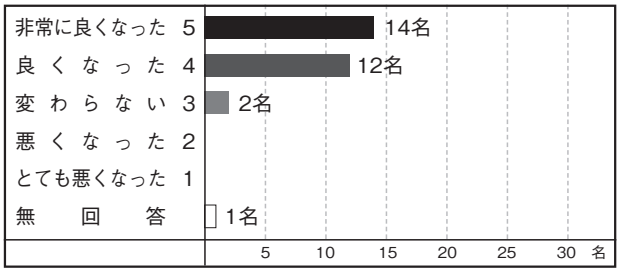
・日本の一般家庭で深く彼らの日常を知り、友情を築いて一生忘れがたい友人となった。
・ホストファミリーがとても親切で、日本文化への理解も深まった。ホストファミリーのこまやかな心遣いともてなしに感謝する。
・とても美しく資源の豊富な都市で、資源を利用することで発展できると思う。
・ホームステイで大きな収穫があった。日本の農村についても深く知ることができ、私たちより進んでいて、多くの問題の解決において大変参考になると思う。

(10) 訪問国活動中、もっとも印象に残ったのは、どのようなことですか。

・ホームステイで日本の一般家庭の生活状況を知り、日本人への理解が深まった。彼らの誠実さ、友好的な態度に感動した。
・全ての都市にそれぞれの特徴があり、都市文化の建設を重視している。それぞれの地方で異なる実感があり、経済的な柔軟性も十分にある。
・企業訪問では、ベネッセ、箱バル不動産、蔦屋書店が印象深い。このほか、日本青年との交流や鳥取のホームステイも忘れがたい思い出となった。
・今の日本青年は広く寛容な心で学んでいるが、一部、中国への印象が20年前のレベルに止まっている人もいるので、お互いの交流を強化する必要がある。

3．事業を終了して

(1) この事業に参加して日本に対する印象は変わりましたか。



・今回の活動を通じて日本の風習を十分に理解でき、日本の地方の風習についても以前より理解が深まった。
・これまで日本人に対する印象は文学や映画、テレビからのものだけだったが、今回はより深く日本人を知り理解することができた。
・もともと日本への印象がよく、ホームステイを通じて日本をより深く知り、より好きになった。先進的な部分がたくさんあり、学ぶに値する。

(2) 今後、この事業の経験をどのようにいかしていきたいですか。

・両国青年の相互交流推進に役立てる。自身の見聞きした内容を身の回りの人に伝え、さらに多くの人に日本社会や文化について知ってもらう。
・中国の青年起業者グループで日本を紹介する。
・経験したことの交流会やセミナーを行う。
・今後も引き続きこのような国際交流活動に参加する。学内の留学生と中国人学生の間の交流活動などで、留学生に本当の中国の姿を知ってもらい、さらに多くの中国人学生がよりよく中国について語れるようなサポートもしたい。

(3) その他、この事業に関して特に意見・提言があれば記入してください。

・ホームステイの期間はもう少し長くてもいい、時間が足りない、出会いは貴重で別れは辛い。もっと長い時間意思疎通がしたい。
・団員の背景の多様性を今後も維持してほしい。それぞれの業種で、それぞれの年齢で両国の青年の交流が深まる。
・日本青年と交流できて非常に良かったので、日本青年の視察同行を増やしてほしい。

研 修 日 程

令和元年度　日本・中国青年親善交流事業（日本青年中国派遣）

【事前研修】

研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

	第１日目	第２日目	第３日目	第４日目	第５日目
月日	７月２日	７月３日	７月４日	７月５日	７月６日
曜日	（火）	（水）	（木）	（金）	（土）
8:00					
8:30					チェックアウト
9:00		副団長・渉外ミーティング	YLミーティング	YLミーティング	
9:30		団別研修	副団長会議	団別研修	団別研修
10:00					
10:30	団長・副団長・渉外会議	プレゼンテーション講座	団別研修	移動	
11:00					
11:30				中国大使館表敬訪問	
12:00	団長・副団長・渉外昼食	昼食	昼食		昼食
12:30	参加青年受付				
13:00		外務省職員による訪問国に関する講義	団別研修		事後活動について
13:30	開講式			移動	
14:00	オリエンテーション			団別研修	派遣に向けて
14:30		団別研修	中国の地域社会とコミュニティについての講座		閉講式
15:00	事業別オリエンテーション			日中友好に関するワークショップ	
15:30	団別研修				
16:00			中国の起業をめぐるビジネス制度についての講座		
16:30					
17:00	チェックイン				
17:30	夕食	夕食		渡航に関する説明	
18:00			夕食交流会	夕食	
18:30	訪問国における安全管理及び訪問国活動に関する説明	団別研修			
19:00				団別研修	
19:30					
20:00	団別研修	OB・OG懇談	団別研修 / 団長・副団長・渉外会議		
20:30					
21:00	振り返り	振り返り	振り返り	事務連絡　振り返り	
21:30					

【出発前研修】 研修会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

	第１日目	第２日目	第３日目
月日	10月27日	10月28日	10月29日
曜日	（日）	（月）	（火）
8:00			6:00 バス駐車場集合 ↓ 6:15 NYC発 ↓ 7:00 羽田空港着 ↓ 9:05 羽田空港発（NH961）
8:30		YLミーティング	
9:00		団研修	
9:30		係別ミーティング	
10:00			
10:30			
11:00			
11:30			
12:00		壮行会	
12:30			
13:00			
13:30	受付		
14:00	オリエンテーション 訪問国活動について	渡航に関する説明	
14:30		訪問国における注意点及び安全管理	
15:00		団研修	
15:30			
16:00	団研修		
16:30			
17:00			
17:30	チェックイン		
18:00	夕食	夕食	
18:30			
19:00	団研修 団長・副団長・渉外会議		
19:30			
20:00	経費説明（副団長）		
20:30			
21:00			
21:30			

【帰国後研修】 研修会場：都市センターホテル

	第１日目	第２日目		第３日目	
月日	11月９日	11月10日		11月11日	
曜日	（土）	（日）		（月）	
8:00					
8:30				チェックアウト	
9:00		YLミーティング			
9:30		全体会		団研修	海外旅行保険申請
10:00		団研修			
10:30			係別ミーティング	事後活動について ①報告会について ②ＩＹＥＯの説明 ③中国団同窓会についてなど	
11:00					
11:30				移動	
12:00		昼食		帰国昼食懇談会	
12:30	17:35 成田空港着（NH930） ↓ 19:00 成田空港発 ↓ 20:30 ホテルルポール麹町着				
13:00				移動・準備	
13:30				成果発表	
14:00				修了証授与式	
14:30				事務連絡	
15:00				修了証授与（団長から）	
15:30		団研修	団長・副団長・渉外会議		
16:00					
16:30					
17:00			修了証授与式リハーサル		
17:30					
18:00		夕食			
18:30					
19:00		評価会 ①アンケート記入 ②自己評価シートまとめ ③振り返り			
19:30					
20:00					
20:30	チェックイン				
21:00					
21:30					

実　績

日本・中国青年親善交流事業（日本青年中国派遣）

回数	年度	期間	訪問地	日数	派遣者数（下段は女性参加者数） 団長	副団長	特別参加者	通訳・渉外団員等	班長	団員	合計	役職	名前	役職（当時）
1	昭和54年度（1979年度）	9/28～10/20	北京、西安、瀋陽、旅大、杭州、上海	23日	1	1	1	2	2	24 (10)	31 (10)			
2	昭和55年度（1980年度）	9/18～10/8	北京、長沙、桂林、上海、南京、揚州	21日	1	2		2 (1)		27 (11)	32 (12)			
3	昭和56年度（1981年度）	9/18～10/8	北京、済南、泰安、曲阜、南京、揚州、無錫、蘇州、上海	21日	1	1		2 (1)		20 (9)	24 (10)			
4	昭和57年度（1982年度）	9/17～10/7	北京、哈爾浜、大慶、長春、瀋陽、上海、杭州、蘇州	21日	1	1 (1)		2		20 (11)	24 (12)			
5	昭和58年度（1983年度）	9/21～10/11	北京、成都、重慶、宜昌、武漢、上海	21日	1	1		2 (1)		16 (9)	20 (10)			
6	昭和59年度（1984年度）	9/28～10/14	北京、西安、上海、厦門、泉州	17日	1	2		2	2	43 (20)	50 (20)			
7	昭和60年度（1985年度）	9/18～10/8	北京、昆明、石林、大理、桂林、広州、深圳、香港	21日	1	1		2		16 (8)	20 (8)			
8	昭和61年度（1986年度）	9/20～10/8	北京、ウルムチ、トルファン、西安、上海	19日	1	2		2 (1)		15 (6)	20 (7)			
9	昭和62年度（1987年度）	9/18～10/6	北京、長春、吉林、瀋陽、大連	19日	1	2		2 (1)		15 (8)	20 (9)			
10	昭和63年度（1988年度）	9/29～10/17	北京、承徳、成都、重慶、武漢、上海	19日	1	2		2 (1)		15 (7)	20 (8)			
11	平成元年度（1989年度）	1/9～1/27	北京、西安、昆明、桂林、広州、香港	19日	1	2		2 (1)		15 (9)	20 (10)			
12	平成2年度（1990年度）	9/2～9/20	北京、敦煌、蘭州、南京、杭州、上海	19日	1	2		2 (2)		15 (7)	20 (9)			

回数	年度	期間	訪問地	日数	派遣者数（下段は女性参加者数） 団長	副団長	特別参加者	通訳・渉外団員等	班長	団員	合計	役職	名前	役職（当時）
13	平成3年度（1991年度）	9/12～9/30	北京、大連、哈爾浜、藩陽、呼和浩特	19日	1	2		2 (1)		15 (9)	20 (10)			
14	平成4年度（1992年度）	9/10～9/28	北京、大連、貴陽、深圳、広州、海口	19日	1	2		2 (1)		15 (9)	20 (10)			
15	平成5年度（1993年度）	9/10～9/28	北京、ウルムチ、トルファン、西安、上海	19日	1	2		2 (2)		14 (8)	19 (10)			
16	平成6年度（1994年度）	8/28～9/15	北京、呼和浩特、包頭、武漢、上海	19日	1	2		2 (2)		15 (9)	20 (11)			
17	平成7年度（1995年度）	9/1～9/19	上海、蘇州、厦門、黄山、合肥、北京、天津	19日	1	2		2 (2)		15 (9)	20 (11)			
18	平成8年度（1996年度）	9/7～9/25	北京、西寧、西安、洛陽、上海	19日	1	2		2 (2)		15 (10)	20 (10)			
19	平成9年度（1997年度）	9/6～9/24	北京、張家界、長沙、慮山、南昌、上海	19日	1	2		2 (1)		14 (10)	19 (11)			
20	平成10年度（1998年度）	9/5～9/23	北京、天津、哈爾浜、延吉、長春、大連	19日	1	2		2 (2)		25 (16)	30 (18)			
21	平成11年度（1999年度）	9/25～10/13	北京、銀川、西安、杭州、上海	19日	1	2		1 (1)		25 (17)	29 (18)			
22	平成12年度（2000年度）	9/23～10/11	北京、武漢、南寧、桂林、上海	19日	1	2		2 (2)		25 (18)	30 (20)			
23	平成13年度（2001年度）	9/1～9/19	北京、呼和浩特、成都、上海	19日	1	2		2 (1)		25 (15)	30 (16)			
24	平成14年度（2002年度）	9/14～10/2	北京、長沙、昆明、広州、香港	19日	1	2 (1)		2 (1)		25 (18)	30 (20)			

回数	年度	期間	訪問地	日数	派遣者数（下段は女性参加者数） 団長	副団長	特別参加者	通訳・渉外団員等	班長	団員	合計	役職	名前	役職（当時）
25	平成15年度（2003年度）	3/6～3/24	北京、鄭州、貴陽、杭州、上海	19日	1	2		2 (2)		25 (16)	30 (18)			
26	平成16年度（2004年度）	9/11～9/29	北京、ウルムチ、蘭州、済南、青島	19日	1	2 (1)		2 (2)		25 (18)	30 (21)			
27	平成17年度（2005年度）	9/10～9/28	北京、西安、呼和浩特、哈爾浜、大連	19日	1	2		2 (2)		25 (17)	30 (19)			
28	平成18年度（2006年度）	9/2～9/20	北京、南寧、厦門、泉州、上海	19日	1	2 (1)		2 (2)		24 (16)	29 (19)			
29	平成19年度（2007年度）	9/5～9/23	北京、九寨、黄龍、成都、青島	19日	1	2 (1)		2 (1)		25 (17)	30 (19)			
30	平成20年度（2008年度）	9/9～9/27	杭州、昆明、玉渓、普洱、北京	19日	1	2 (1)		2 (2)		25 (17)	30 (20)			
31	平成21年度（2009年度）	9/8～9/22	北京、銀川、太原、大同	15日	1	2 (1)		2 (2)		25 (12)	30 (15)			
32	平成22年度（2010年度）	9/6～9/20	北京、合肥、蘇州、上海	15日	1	2 (1)		2 (1)		24 (18)	28 (20)			
33	平成23年度（2011年度）	9/14～9/28	北京、西寧、重慶	15日	1	2		2 (2)		24 (12)	29 (14)			

回数	年度	期間	訪問地	日数	派遣者数（下段は女性参加者数） 団長	副団長	特別参加者	通訳・渉外団員等	班長	団員	合計	役職	名前	役職（当時）
34	平成24年度（2012年度）	9/12～9/26	北京、フフホト（呼和浩特）、ハルビン（哈爾浜）、北京	15日	1	2 （1）		2 （2）		24 （13）	29 （16）			
35	平成25年度（2013年度）	12/12～12/21	北京、合肥、厦門	10日	1	2 （1）		2 （1）		20 （12）	25 （14）			
36	平成26年度（2014年度）	10/14～10/25	北京、貴陽、長沙	12日	1	2		2 （2）		23 （18）	28 （20）			
37	平成27年度（2015年度）	8/22～9/2	北京、太原、杭州	12日	1	2 （1）		2 （2）		25 （18）	30 （21）			
38	平成28年度（2016年度）	3/7～3/18	北京、景徳鎮、深圳、広州	12日	1	2		2 （1）		18 （13）	23 （14）			
39	平成29年度（2017年度）	11/14～11/25	北京、貴陽、凱里、深圳、広州	12日	1	2 （1）		2 （2）		21 （12）	26 （15）			
40	平成30年度（2018年度）	10/23～11/3	北京、西安、宝鶏、成都	12日	1	2 （1）		2 （2）		20 （11）	25 （14）			

回数	年度	期間	日数	派遣者数（下段は女性参加者数）							役職	名前	役職（当時）
	訪問地			団長	副団長	特別参加者	通訳・渉外団員等	班長	団員	合計			
41	令和元年度（2019年度）	10/29～11/9	12日	1	2 （2）		2 （2）		23 （14）	28 （18）			
	北京、鄭州、洛陽、杭州												
計	1068（589）												

実　績

日本・中国青年親善交流事業（中国青年日本招へい）

回数	年度	期間	訪問地	日数	招へい者数（下段は女性参加者数） 団長	副団長	秘書長	副秘書長	団員	通訳・渉外団員等	合計	役職	名前	役職（当時）
1	昭和54年度（1979年度）	10/25～11/17	東京、愛知、広島、大阪、奈良	24日	1	2（1）	1	1	21（6）（うち通訳2）		26（7）			
2	昭和55年度（1980年度）	11/27～12/17	東京、神奈川、静岡、福井、京都、福岡、香川、大阪	21日	1		1（1）		18（1）（うち通訳1）		20（2）			
3	昭和56年度（1981年度）	11/23～12/10	東京、兵庫、岡山、山口、宮崎	18日	1	2	1（1）		11（5）	1（1）	16（7）			
4	昭和57年度（1982年度）	10/18～11/4	東京、京都、島根、長崎	18日	1	1	1		17（3）（うち通訳2）		20（3）			
5	昭和58年度（1983年度）	10/18～11/4	東京、神奈川、鳥取、大阪	18日	1（1）	1（兼秘書長）		1	15（2）	2（1）	20（4）			
6	昭和59年度（1984年度）	11/12～11/30	東京、栃木、宮城、愛知、京都、広島市、大阪	19日	1		1（1）		17（5）	1	20（6）			
7	昭和60年度（1985年度）	10/27～11/12	福岡、広島市、京都、富山、東京、神奈川、大阪	17日	1	1	1		39（17）	分団長3 通訳5（2）	50（19）			
8	昭和61年度（1986年度）	10/28～11/14	東京、静岡、愛知、熊本、沖縄、長崎	18日	1	1	1		17（4）		20（4）			
9	昭和62年度（1987年度）	10/27～11/13	東京、青森、福島、京都、大阪	18日	1	2	1	1（1）	25（7）		30（8）			
10	昭和63年度（1988年度）	8/31～9/17	東京、滋賀、愛媛、山口、佐賀	18日	1	2	1		26（5）（うち通訳2(1)）		30（5）			
11	平成元年度（1989年度）	3/4～3/21	東京、大阪、熊本、大分、福岡	18日	1	1	1		27（8）（うち通訳2(1)）		30（8）			
12	平成2年度（1990年度）	10/2～10/20	東京、北海道、青森、仙台市、栃木	19日	1（1）	1（兼秘書長）1			27（8）（うち通訳2(1)）		30（9）			

回数	年度	期間	訪問地	日数	招へい者数(下段は女性参加者数) 団長	副団長	秘書長	副秘書長	団員	通訳・渉外団員等	合計	役職	名前	役職(当時)
13	平成3年度 (1991年度)	10/15～10/31	東京、横浜市、愛知、 京都、福井、富山	17日	1	1	1		27 (4) (うち通訳2)		30 (4)			
14	平成4年度 (1992年度)	10/10～10/28	東京、京都市、和歌山、 徳島、香川、岡山	19日	1	1	1 (1)		27 (6)		30 (7)			
15	平成5年度 (1993年度)	10/10～10/28	東京、北海道、岩手、 茨城、愛知	19日	1 (1)	1	1		27 (6)		30 (7)			
16	平成6年度 (1994年度)	10/10～10/28	東京、熊本、北九州市、 山口、京都市	19日	1	2 (1)			25 (10)	渉外 2	30 (11)			
17	平成7年度 (1995年度)	10/10～10/28	東京、北海道、秋田、 愛知、静岡	19日	1	1	1		26 (6)		29 (6)			
18	平成8年度 (1996年度)	10/23～11/10	東京、北九州市、石川、 福井、京都市	19日	1	1	1		25 (10)		28 (10)			
19	平成9年度 (1997年度)	11/12～11/30	東京、北海道、大阪市、 徳島、熊本	19日	1	1 (1)	1		26 (6)		29 (7)			
20	平成10年度 (1998年度)	10/28～11/15	東京、山形、青森、 京都、神戸市	19日	1	1 (兼秘書長) 1			37 (14)		40 (14)			
21	平成11年度 (1999年度)	11/10～11/28	東京、千葉、神戸市、 大阪、沖縄	19日	1 (1)	1	1		26 (7)		29 (8)			
22	平成12年度 (2000年度)	11/8～11/26	東京、山形、千葉、 和歌山、長崎	19日	1	1	1		26 (7)		29 (7)			
23	平成13年度 (2001年度)	11/14～12/2	東京、山形、岐阜、 兵庫、長崎	19日	1	1	1		27 (12)		30 (12)			
24	平成14年度 (2002年度)	11/12～12/1	東京、千葉、岐阜、 徳島、熊本	20日	1		1		26 (9)		28 (9)			

回数	年度	期間	訪問地	日数	招へい者数(下段は女性参加者数) 団長	副団長	秘書長	副秘書長	団員	通訳・渉外団員等	合計	役職	名前	役職(当時)
25	平成15年度（2003年度）	11/12～11/30	東京、北海道、大阪市、島根、京都市	19日	1		1		28（10）		30（10）			
26	平成16年度（2004年度）	11/10～11/28	東京、京都、広島、熊本	19日	1		1		25（11）		27（11）			
27	平成17年度（2005年度）	11/9～11/27	東京、京都、和歌山、山形	19日	1	1（1）	1		24（10）		27（11）			
28	平成18年度（2006年度）	11/8～11/26	東京、群馬、島根、京都、函館市	19日	1		1		28（14）		30（14）			
29	平成19年度（2007年度）	11/6～11/24	東京、栃木、岩手、宮崎	19日	1		1		28（10）		30（10）			
30	平成20年度（2008年度）	11/4～11/22	東京、鳥取、兵庫、北海道	19日	1		1		27（14）		29（14）			
31	平成21年度（2009年度）	11/12～11/26	東京、京都、鳥取	15日	1		1（1）		27（10）		29（11）			
32	平成22年度（2010年度）	11/9～11/23	東京、秋田、広島	15日	1	1	1	1（1）	25（13）		29（14）			
33	平成23年度（2011年度）	11/8～11/22	東京、岐阜、鳥取	15日	1		1		27（16）		29（16）			
35	平成25年度（2013年度）	11/26～12/3	東京、熊本	8日	1	1（1）	1（1）		27（10）		30（12）			
36	平成26年度（2014年度）	11/27～12/8	東京、京都、鳥取	12日	1		1		28（9）		30（9）			
37	平成27年度（2015年度）	11/10～11/21	東京、函館市 、群馬	12日	1		1	1（1）	25（5）	1	29（6）			

回数	年度	期間	日数	招へい者数（下段は女性参加者数）							役職	名前	役職（当時）
	訪問地			団長	副団長	秘書長	副秘書長	団員	通訳・渉外団員等	合計			
39	平成29年度（2017年度）	10/24～11/4	12日	1		1		27 （8）	1 （1）	30 （9）			
	東京、広島、愛知												
40	平成30年度（2018年度）	8/21～9/1	12日	1		1 （1）		27 （10）	1 （1）	30 （12）			
	東京、岩手、沖縄												
41	令和元年度（2019年度）	8/22～9/2	12日	1 （1）	1	1		26 （13）	1	30 （14）			
	東京、函館市、鳥取												
計	1113（357）												

（注）平成24年度（第34回）、平成28年度（第38回）は、実施されなかった。

第41回
日本・中国青年親善交流事業

発　　行：内閣府
〒100－8914
東京都千代田区永田町1－6－1
TEL：03－6257－1436
FAX：03－3581－1609
URL：https://www.cao.go.jp/koryu/

編　　集：一般財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103－0013
東京都中央区日本橋人形町2－35－14
東京海苔会館６階
TEL：03－3249－0767
FAX：03－3639－2436
URL：http://www.centerye.org/

印　　刷：株式会社 長正社